

えだまめ

枝豆とは未成熟な大豆を収穫したものです。枝付きのまま扱われることが多かったために「枝豆」と呼ばれるようになったとも言われています。タンパク質が多く含まれることから畑の肉といわれる大豆。同じ植物である枝豆も、タンパク質や脂質を多く含んでいます。

6月の農作業

平成15年発行：
JAハリマ「活き活き健康野菜づくり」より

作型

窒素過多になると、茎葉が繁茂し、着莢不良を招く。マルチをすると、さやの汚れを防ぎ商品性が向上し、また土壌の乾燥を防ぐことができる。根が浅いので、土壌表面の乾燥を防ぐため、マルチ、敷きわらをする。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
直 ま き					○	○				■	■	■	丹波黒

○：種まき ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり a当たり	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	15kg
BMようりん	5～7kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	

・畝幅120cm 1条まき 株間60cm
(条間50～60cm)



播種

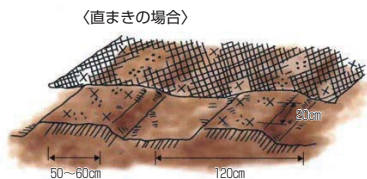
・播種は1ヶ所、2～3粒まき（重ならないように）

〈鳥害の防止〉

種まき後に寒冷紗をべた掛けするか、穴株対策として、育苗しておく。
(初生葉が半開きの苗を植え付ける)

間引き・土寄せ・追肥

- ・本葉の始め：間引いて2本立ちとする。
- ・播種後1ヶ月：土寄せを行う。
- ・開 花 盛 期：野菜専用肥料1.0～1.5kg/aを施用後、土寄せを行う。



灌水

・開花までは控えめに、開花後は多めに灌水する。

防除

病害虫名	耕 種 防 除	薬 剤 防 除
カメムシ ハスモンヨトウ	幼虫の分散前に幼虫を取り除く	トレボン乳剤(1000倍)14日前まで2回以内 (カメムシの散布期はさやの伸長期)
アブラムシ	光反射テープを張る	スミチオン乳剤(1000～2000倍)21日前まで4回以内

収穫

・さやがふくらんで、指で押さえると、中の豆が飛び出すようになれば収穫適期。
(収穫が遅れると豆が硬くなる)



裏面は雑草図鑑 ツユクサ・アオミドロを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.314 平成29年6月26日発行

雑草図鑑

ツユクサ・アオミドロ

6月の農作業

ツユクサ

畑地、道端などに生育する田畑共通種の一年草で、やや湿った所を好む。茎は根際で盛んに分枝し、下部は横に這い地面についた節からも根を出す。高さは30～40cmになり、6月～9月に茎の先に青い花をつける。朝露を受けて咲き始め、午後になるとしぼんでくる。原産地は、日本、東南アジアで、平安時代までは衣服に柄や色を着ける染料に利用され、江戸時代以降は色素が水溶性で長く残らない性質を利用して染物の下絵付けなどに重宝されていた。

種子の土中での生存年限は長く、4年を過ぎてても発芽することがある。



群生するツユクサ

防除のポイント

残った茎からも発根するので取り残さないようにする。発生後は移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックスロード（作物によって使用方法が異なるため要確認）を散布する。



ツユクサ(発生早期)



ツユクサ(発生盛期)

アオミドロ

水田や池、沼などにみられる藻類で、水田に多く発生すると稲の生育に害を及ぼす。細胞が一列に連なって糸状になるが、枝分かれはしない。無数に集まって群生し、綿のようになって触るとぬるぬるする。体が切れて殖える。水温18～23℃で良好に発生するが、30℃を超えると繁殖が減退する。生存期間は長い。土中の有機物、リンや窒素成分が多い場合に多発する。移植直後に多発すると、水温の低下や稲苗のなぎ倒し、肥料養分の収奪などで稲の分けつを抑制することがある。



田一面に広がるアオミドロ

防除のポイント

乾燥に弱いため、発生量が多い場合は一度落水して強度の中干しを行う。

適用農薬	10a当たり使用量	使用時期
モゲトン粒剤	2kg	収穫45日前まで



アオミドロ(発生初期)



アオミドロ(増殖期)

裏面はえだまめを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.314 平成29年6月26日発行